

新しい世代の副業文化 (マレーシア編)

私には、オーストラリアに移住した友人がいます。彼は以前から、妻と子供の3人でより裕福な生活が送れるように、平均賃金の高い国で暮らすことを望んでおり、つい最近娘が生まれたことをきっかけに、オーストラリアに移住したのです。

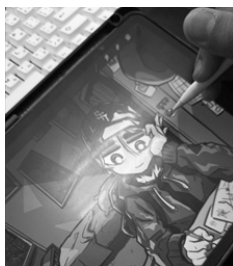
彼は、これまでの人生を通じてとにかく頑張り屋で、地元の大学を卒業すると同時に22歳で働き始め、それからずっと休むことなく、2つや3つの仕事を掛け持ちする生活をしていました。彼にとって副業は、収入面だけではなく価値ある経験もたくさんすることができたようです。そして、賃金の高いオーストラリアに移住した現在も、少なくとも3つの仕事をこなし、それを楽しんでいるようです。そんな彼を見ていると、今まで何気なく副業を続けてきた自分自身のことを、振り返らずにはいられませんでした。

私は、イギリスの大学を卒業し2017年に働き始めてから、友人や仕事仲間の中で、例えば美術作品、木工芸品、手工芸品などの制作のような仕事を思いつくままに経験してきました。しかし、いずれも経済的に成立させることはできず、自分の隠れたスキルを活用す

ることだけに留まりました。2020年に今の事務所に入所し、特許の仕事に従事してからは、このようなクリエイティブを発揮する仕事は、副業として続けています。

私が働き始めた7年前と2024年現在を比較すると、生活費は大幅に上昇しています。これは、2020年に発生した、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響によるものが大きいように思われます。経済状況が急速に変化している今日、私を含め多くのZ世代とミレニアル世代は、私たちが直面している経済不況を乗り越えるため、本業の収入に加え、少しでも足しになる収入源を積極的に探しているように思われます。

Frontline Recruitment Group（編集者注：求人・転職情報を提供するオーストラリア企業）が実施した調査によると、Z世代の5人に4人が、こうした物価上昇に備えるため、別の収入源を考えている可能性が高いということです。ミレニアル世代やY世代は、Z世代と同様に、収入源を増やすことの重要性を認識しているようですが、私たちより年配の世代であるX世代やベビーブーマー世代は、こういったパラダイムの変化を受け入れず、1



副業をしている様子を描いてみました



その完成作



副業しています

つの収入源で生活を続けている可能性が高いようです。年配の世代にとって、若者の副業に関する関心は理解しにくいかもしれません。

新しい世代が積極的に行っている「複数の収入源を持つ」という働き方は、燃え尽き症候群を促進する文化ではあると思います。本業と副業を同時にこなしている人は、全員ではないにせよ頑張りすぎてしまい、多くの人が燃え尽きてしまう傾向があると思います。遊びのような自由な時間が減り、いろいろなことを犠牲にすることにもなります。

私はかつて、4つのプロジェクトを同時に抱え、納期を守るために、本業と合わせて週に100時間近く働いたことがあります。業種は全く違いますが、勤務時間が長いことで知られているオンコールの医師（院外にいてもできるだけ早く病院に駆けつけられる体制で待機する医師）が、1週間に働く時間に匹敵するほどの激務だと思います。副業文化を支持する人々は、多くの収入を得るためには、長時間にわたり勤務をすることはやむを得ないことだと思っているかもしれませんが、誰にでもできることではありません。必要以上のお金を稼ぐため、自分を酷使する必要はないと私は考えています。

親元を離れて過ごすことで、経済的に自立するためだけでなく、将来、自分の家族を持つことも考えるようになりました。今は、本業では少なくとも週40時間以上勤務し、安定的な収入を得られているとはいえ、家や車の



昨年完成させた作品

ローン、クレジットカードの請求書、結婚資金などを考慮すると、少しは余裕資金を持ちたいと思うものです。そうすると、毎月の給料以外に、もっとお金を稼ぐにはどうしたらいいかという考えは、今も考え続けてしまうのです。

今のところ、いくつかの副業が決まっていますが、将来に燃え尽き症候群になってしまうことを避けるため、自分のできる範囲内で無理をせず、自分のペースで仕事をするべきだとはっきりと言いつけています。人生は短く、誰もが一度きりの人生を歩んでいます。収入に関係なく、自分の価値観をしっかりと持って、自分の人生を楽しみたいと思います。

著者紹介



Mr. Alistair Yeo
(アリスター・ヨー)

1992年、マレーシアのサラワク州クチン生まれ。GIP ASEANマレーシアの特許技術者。2015年、イギリスのボーツマス大学で機械工学の学士号（優等学位）を取得。

2016年、イギリスのリバプール大学で高度航空宇宙工学の理学修士号取得。2020年、GIP ASEANに入所。

編集者紹介



魯 佳瑛 (ノ・カヨン)

日本弁理士、弁理士法人 新樹グローバル・アイビー所属。1981年韓国ソウル生まれ。ソウルの成均館大学卒業。2006年よりソウルの特許事務所で知的財産分野のキャリアをスタート。結婚をきっかけに来日。2014年

日本弁理士試験合格。専門は、商標・意匠。